記者発表資料

平成２７年３月１０日
青森河川国道事務所

計画的な市街地形成や産業振興による地域活性化を支援
～ 国道7号青森環状道路 開通5年後の整備効果 ～

■国道７号青森環状道路は、青森市内の国道７号と国道４号の交通混雑緩和や交通安全の確保、青森都市圏の産業振興による地域活性化支援等を目的に整備を進め、平成２１年度に完成しました。
今回、開通５年後の整備効果についてとりまとめましたのでお知らせします。

◆青森市都市開発の限界線として、都市の集約化や流通・産業の拠点形成に寄与
（青森市の『コンパクトシティ』形成を支援）

◆青森都市圏の物流効率化や地域経済の発展に寄与
（事例①：「青森総合卸センター」の拡張や企業立地を支援）
（事例②：「西部工業団地」の企業立地や雇用確保を支援）

◆円滑なアクセス道路確保によるイベント支援
（事例③：「青森スポーツ広場（約 10 万人以上）」の円滑利用を支援）

【事業経緯】昭和 49 年　事業着手
平成 14 年　全線 2 車線開通（16.6km）
平成 21 年　4 車線開通（9.9km 区間）

＜記者発表先：青森県政記者会、建設関係専門紙＞

問い合わせ先

国土交通省 東北地方整備局　青森河川国道事務所
副所長（道路）　大森（おおもり）　祐一（ゆういち）　（内線 205）
（代表）017-734-4521
調査第二課長　船水（ふなみず）　義一（よしひと）　（内線 451）
（直通）017-734-4570

一般国道7号　青森環状道路（あおもりかんじょう）

【開通５年後の整備効果資料】

平成２７年　３月１０日
国土交通省　東北地方整備局

1．事業の目的と概要

事業完了後５年経過

○事業目的

・青森市内における国道４号と国道７号の交通混雑緩和や交通安全の確保

・青森都市圏の産業振興による地域活性化を支援

○計画概要

起終点　：自）青森県青森市新城（しんじょう）字山田（やまだ）

　　至）青森県青森市大字平新田（たいらしんでん）字森越（もりこし）

延長　：１６．６ｋｍ

幅員　：(暫定)１４．５ｍ

　　(完成)２８．０ｍ

道路規格　：第３種１級

設計速度　：８０km/h

都市計画決定：昭和４９年度

事業化　：昭和４９年度

用地着手　：昭和５０年度

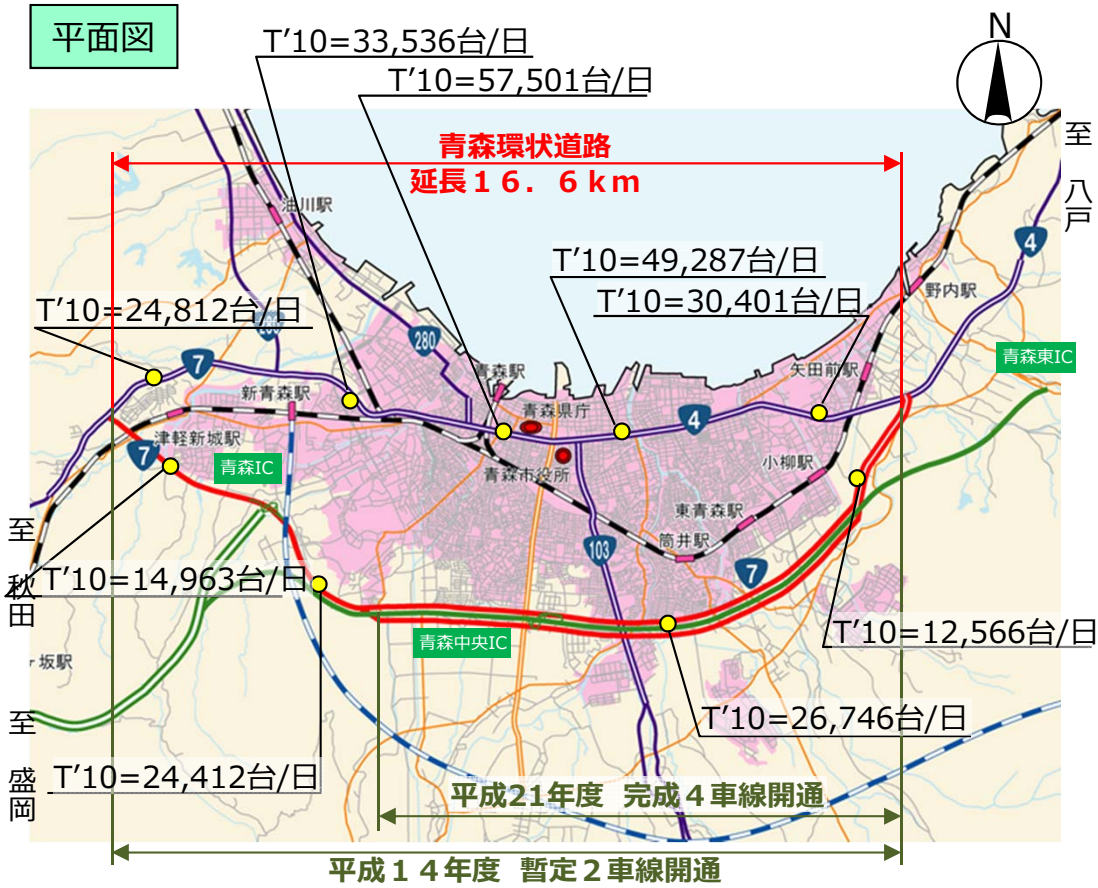
工事着手　：昭和５０年度

開通年度　：平成２１年度（H21.7）

位置図



平面図

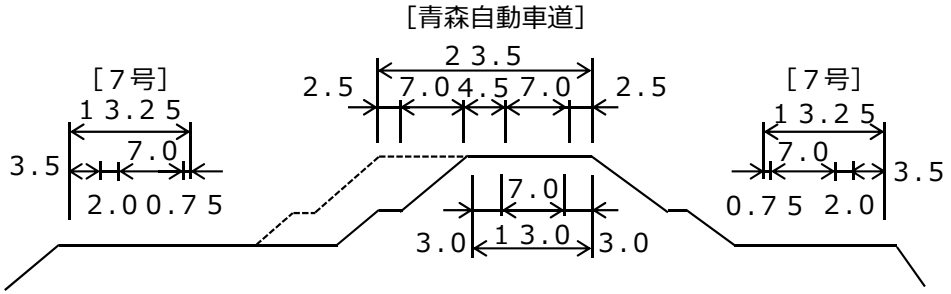


凡例

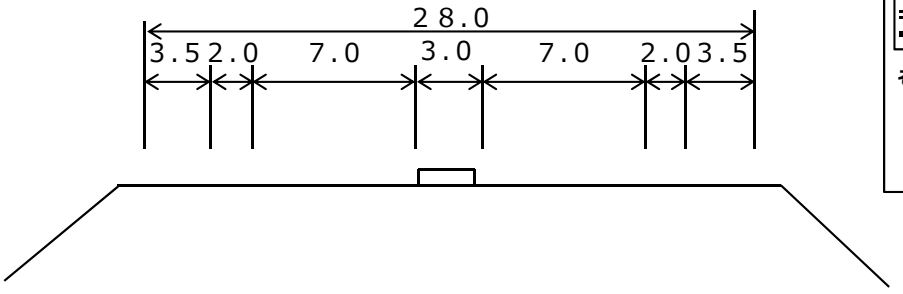
- 道路種別
  - 評価対象区間
  - 高規格幹線道路
  - 一般国道
  - 主要地方道・一般県道
- 車線数
  - ４車線以上
  - ２車線
- その他凡例
  - 市役所
  - H22センサス交通量
  - DID（人口集中地区）

標準横断図

青森自動車道併設区間　（単位：m）



一般国道単独部　（単位：m）



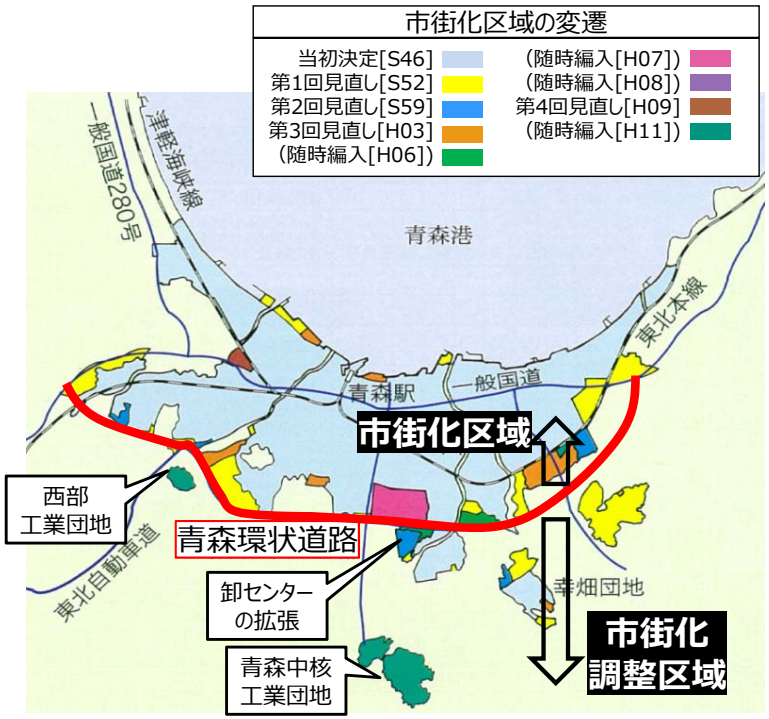
2．事業効果の発現状況（１）　計画的な市街地形成を支援

◆青森市では『コンパクトシティー』形成を目指し、市街地の内側に向けた都市づくりを推進
◆青森環状道路は、都市開発の限界線（境界）として位置づけされ、都市の集約化や流通・産業の拠点形成に寄与

昭和46年～平成11年までの都市計画

○昭和46年に都市計画区域を線引き、**青森環状道路の内側が市街化区域、外側が市街化調整区域として設定され、現在の都市構造のベースが形成。**

▼　青森市の市街化区域の変遷（S46～H11）



出典：青森市の都市計画（青森市都市政策部）

平成11年以降の都市計画

○平成11年の「青森市都市計画マスタープラン」にて都市づくりの理念**『コンパクト・シティ』を具体化**
○都市を**３つに区分（インナー、ミッド、アウター）**し、地区特性に応じた都市整備を推進
→**『青森環状道路』が、“ミッド（居住地域）”“アウター（開発抑制地域）”の開発限界線に位置付けられるとともに、沿線には流通拠点や工業団地、交流・レクリエーション施設（公共）が配置**

▼　青森環状道路沿線の主な公共施設等



■青森市（都市整備部　都市政策課）の声
○青森環状道路は、市街化区域の外縁に位置づけられ、拠点間の連結はもとより、中～大規模の事業所の受け皿になるなど、都市計画上重要な機能を担っている。

資料：H26.12　青森市都市整備部都市政策課ヒアリング

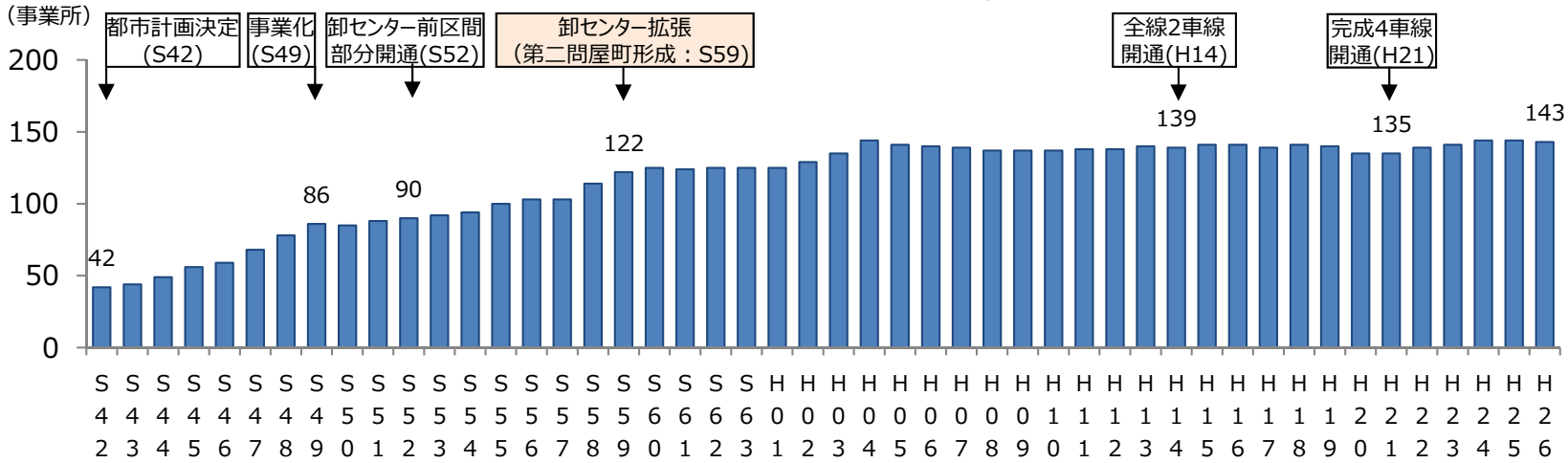
■青森市（都市整備部　都市政策課）の声
○青森市スポーツ広場やサンドームなどのスポーツ施設については、用地等とともに市民のアクセスのしやすさ等も踏まえ、青森環状道路沿線へ計画、整備が実施された。

資料：H26.12　青森市都市整備部都市政策課ヒアリング

2．事業効果の発現状況（２）　物流効率化による産業振興を支援

◆昭和４２年に設立した「青森総合卸センター」は、青森都市圏の卸売・流通を担う重要拠点として機能
◆青森環状道路の部分開通後（Ｓ５２）、卸センターを拡張し立地企業数も大きく増加
◆都市圏の物流効率化や地域経済の発展に寄与

▼青森総合卸センターの企業立地数の推移



資料：協同組合青森総合卸センター資料

【協同組合青森総合卸センター概要】

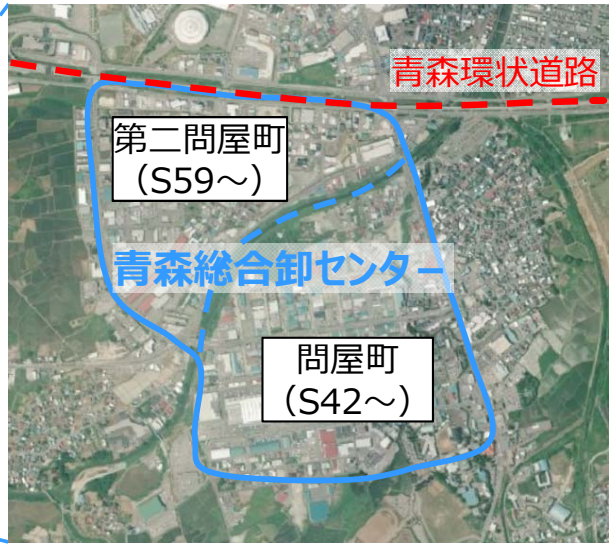
青森県で最大、東北・北海道地区における規模においても、仙台卸商センター・盛岡卸センターに次ぐ第3位の規模を誇る県内最大の流通拠点。

・設　　立：昭和42年
・事 業 所 数：143社
・年間総販売額：1,400億円
・従 業 員 数：3,000人
・総　面　積：521.236㎡
（平成26年4月現在）

資料：協同組合青森総合卸センター資料

▼ 青森総合卸センターの立地状況





■協同組合青森総合卸センターの声

○青森市の中心にあり、市東西方面や県外へアクセスが高い「青森環状道路」沿線の立地は、卸売業や流通業が集積する当団地の運営にとって大変重要なファクターとなっている。
○青森環状道路をはじめとした道路整備により需要が高まり、昭和59年に青森環状道路沿線に拡張し現在に至っており、近年は、センター内にはほぼ空きのない状況で運営している。

資料：Ｈ26.12　協同組合青森総合卸センターヒアリング

■運送事業所の声

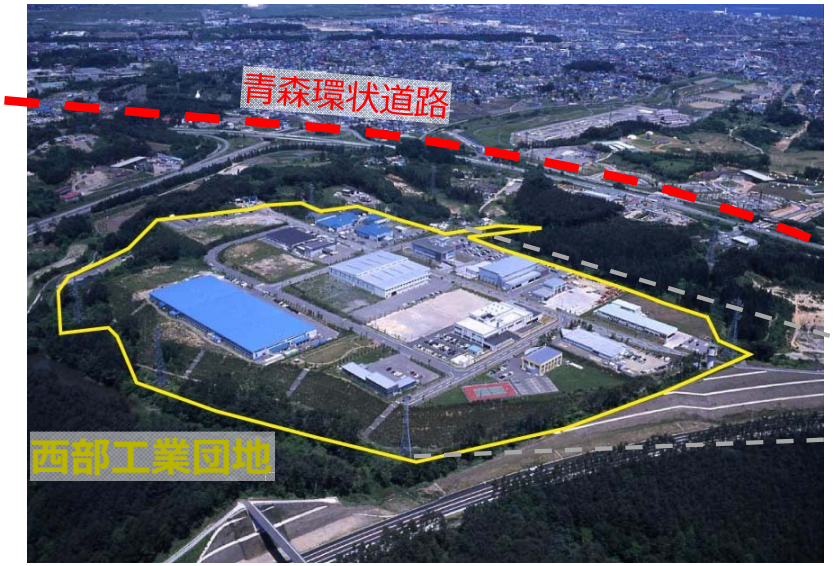
○県外からの貨物を高速道路経由で輸送、仕分けたうえで、青森環状道路を利用して市内各所に配送している。
○青森環状道路は定時性が高いので優先的に利用している。

資料：Ｈ26.12　物流事業所ヒアリング

3．事業効果の発現状況（３）　企業立地による雇用確保等を支援

◆青森環状道路沿線の「西部工業団地」（平成26年度： 15事業所（分譲率９３%））
◆平成6年度開設以降、順調に事業所数が増加し、企業立地の促進により地元雇用の確保に寄与

▼ 西部工業団地の立地状況

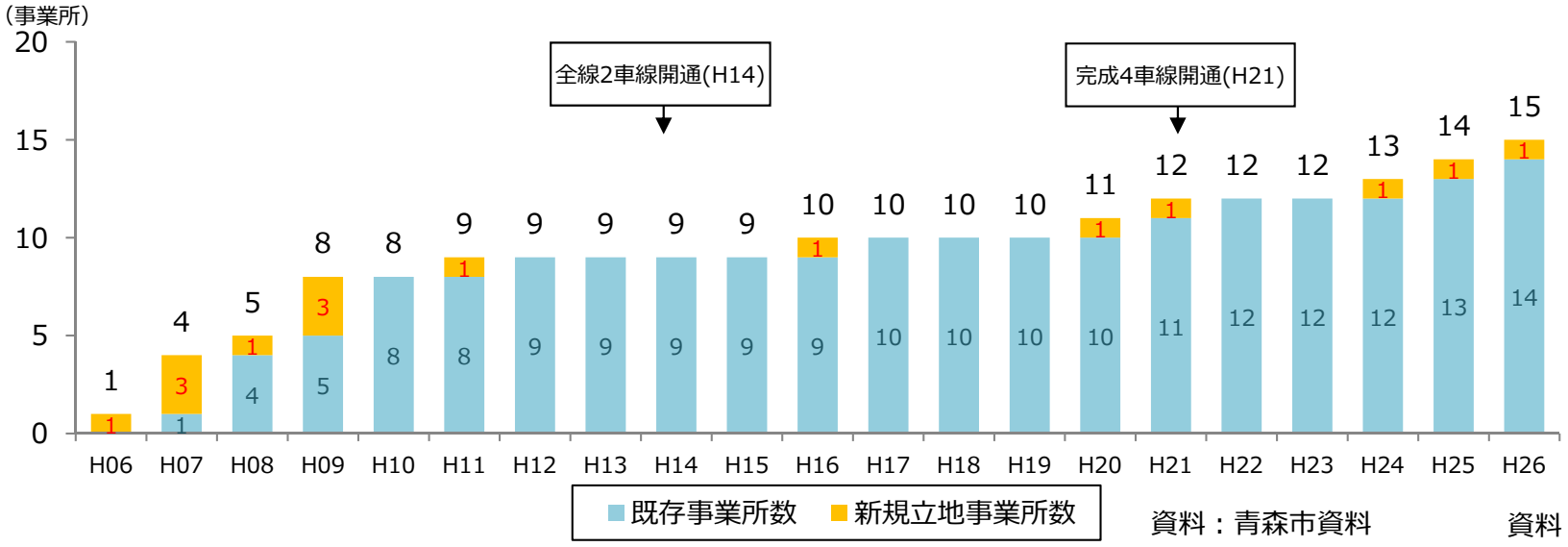




【西部工業団地概要】
平成6年に開設され、平成26年現在、製造業を中心に15事業所が立地している工業団地。

・事　業　主　体　：青森市
・完　　成　：平成6年度
・総　　面　　積　：約30ヘクタール
・工場用地面積　：約16ヘクタール
・用　途　地　域　：工業専用地域
・事 業 所 等 数：15事業所・施設
（内、青森市関連が2施設）

▼ 西部工業団地の立地事業所数の推移



資料：青森市資料

■青森市（経済部　雇用創出・企業立地課）

○青森市では西部工業団地などへの企業誘致を毎年複数企業実現しており、青森環状道路をはじめとした交通基盤の整備により、交通の要衝としての評価が高まったことが大きい。

資料：H26.12　青森市ヒアリング調査結果

■西部工業団地立地事業所

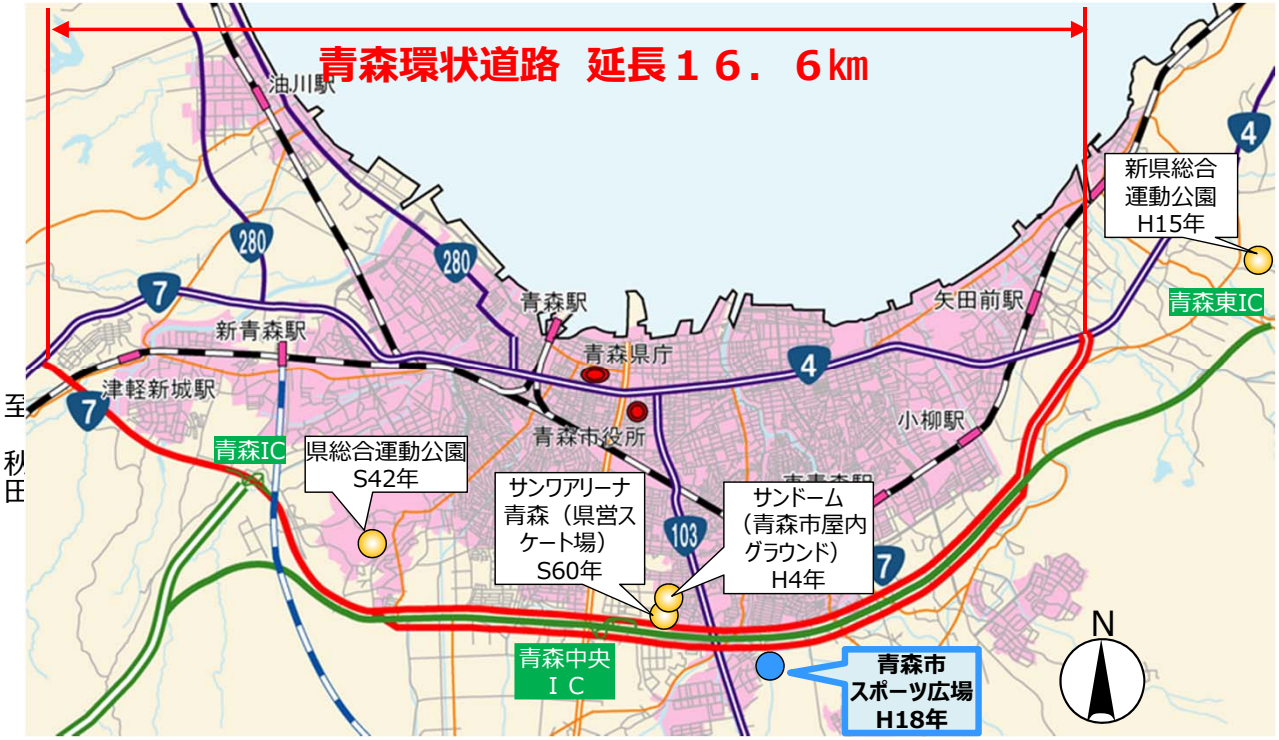
○西部工業団地に工場を新設してから約20年の間に、地元より約1,800人を雇用。

資料： H27.1西部工業団地事業所アンケート調査結果

2．事業効果の発現状況（４）　円滑なアクセス道路確保によるイベント支援

◆青森環状道路沿線には、複数のスポーツ関連施設が立地し、主要なスポーツ大会など数多く開催
◆主要アクセス道路として、円滑な大会運営等を支援（青森市スポーツ広場では、年間10万人以上の来場を支える道路として機能）

▼　青森環状道路沿線の主なスポーツ関連施設

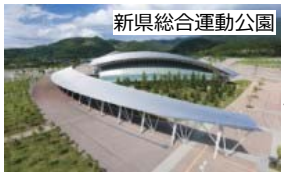








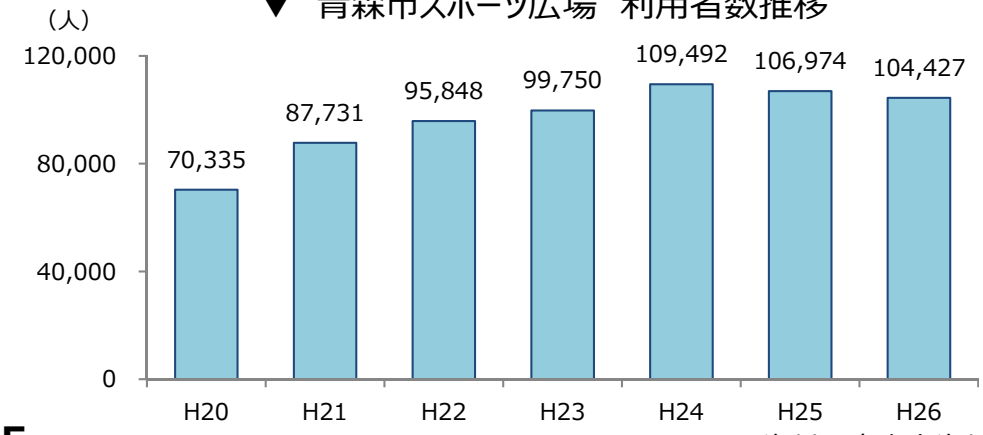




▼　青森環状道路沿線施設における
主なスポーツ大会・イベント（H26年度）

施設名	大会・イベント名
青森県総合運動公園	青森県高等学校総合体育大会
	県春季陸上選手権大会
	県高校新人陸上競技大会
	県中学校新人陸上競技大会
	青森県選手権水泳競技大会
	青森県高等学校選手権水泳大会
	青森県中学生学年別水泳大会
	東北中学校水泳競技大会
	青森県少年サッカー大会
	青森県ゲートボール選手権大会
	全国小学生交流大会県予選会
	全国高校ラグビー青森県大会
	県身障者スポーツ大会
青森市スポーツ広場	青森県高等学校総合体育大会
	北海道・東北地区大学ソフトボール選手権大会
	青森県シニアサッカーリーグ
	青森県グラウンド・ゴルフ交歓大会
	JFAキッズサッカーフェスティバル
	ショーワカップ中学生ソフトテニス大会
サンワアリーナ	東北女子アイスホッケー大会

▼　青森市スポーツ広場　利用者数推移



資料：青森市資料

■スポーツネット青森（青森市スポーツ広場指定管理者）の声

○5～11月の開園期間中、毎週末、東北全域単位から地域単位までの様々のスポーツ大会が開催されており、市民のみならず市外や県外からの利用も見られ、そのほとんどが自動車で来園している為、駐車場(約800台収容)は常に満車状態となっている。

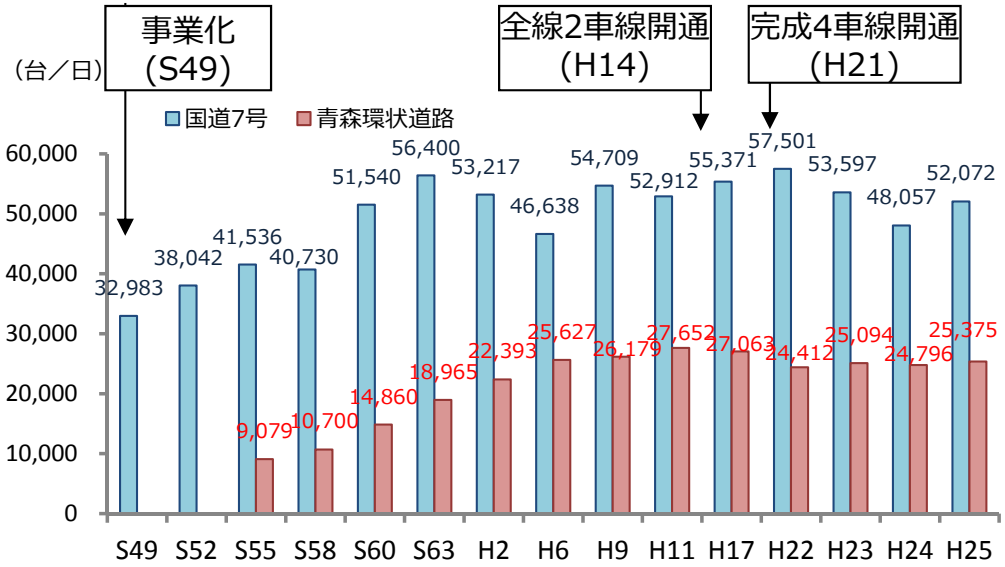
資料：Ｈ27.1　青森市スポーツ広場施設管理者ヒアリング

2．事業効果の発現状況（５）　利用交通量の状況

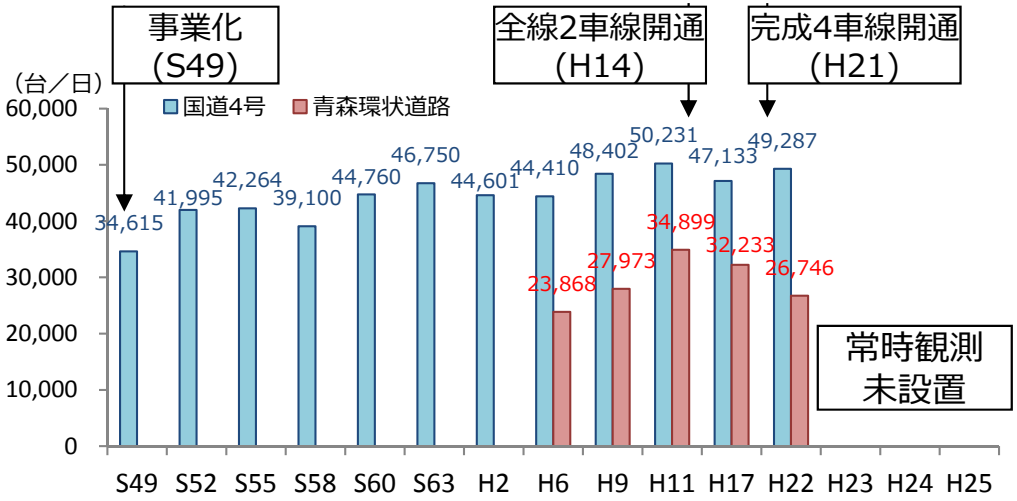
◆青森市は行政･都市機能が集積し、国道4号･７号の交通量は横ばい
◆一方、大型車交通量は青森環状道路に約５割転換　　◆冬期の速達性、定時性を確保

▼ 現道及び青森環状道路の交通量の推移

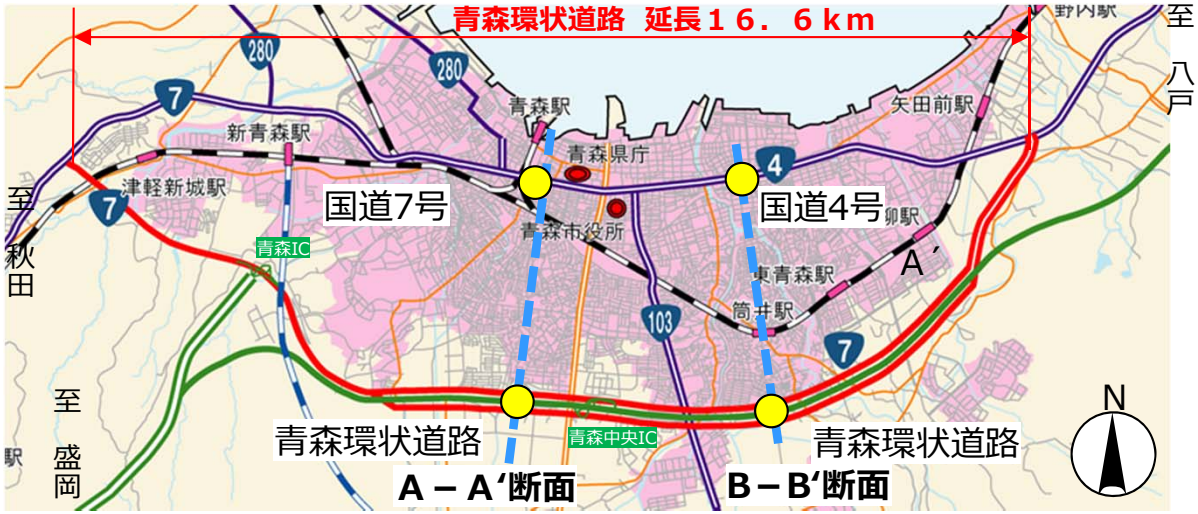
＜A－A‘断面＞



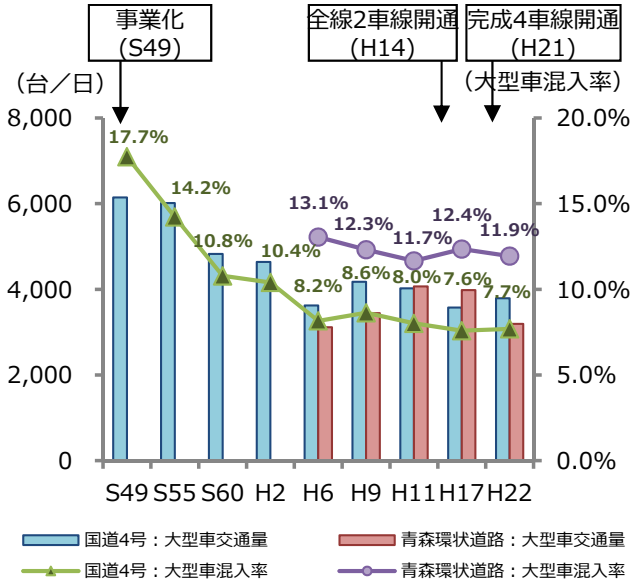
＜B－B‘断面＞



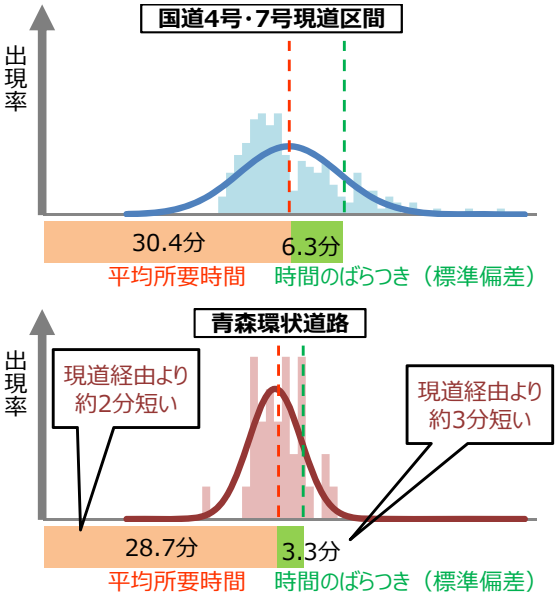
資料：S49～H22道路交通センサス
：H23～H25交通量常時観測データ



▼ 大型車交通量の推移
（Ｂ－Ｂ‘断面）



▼ 冬期間の定時性等確保
【冬期(1～3月)－7～9時台】

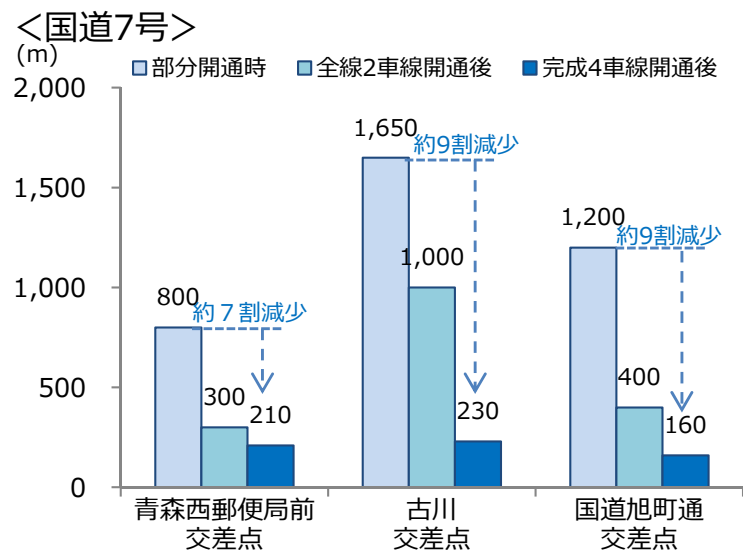


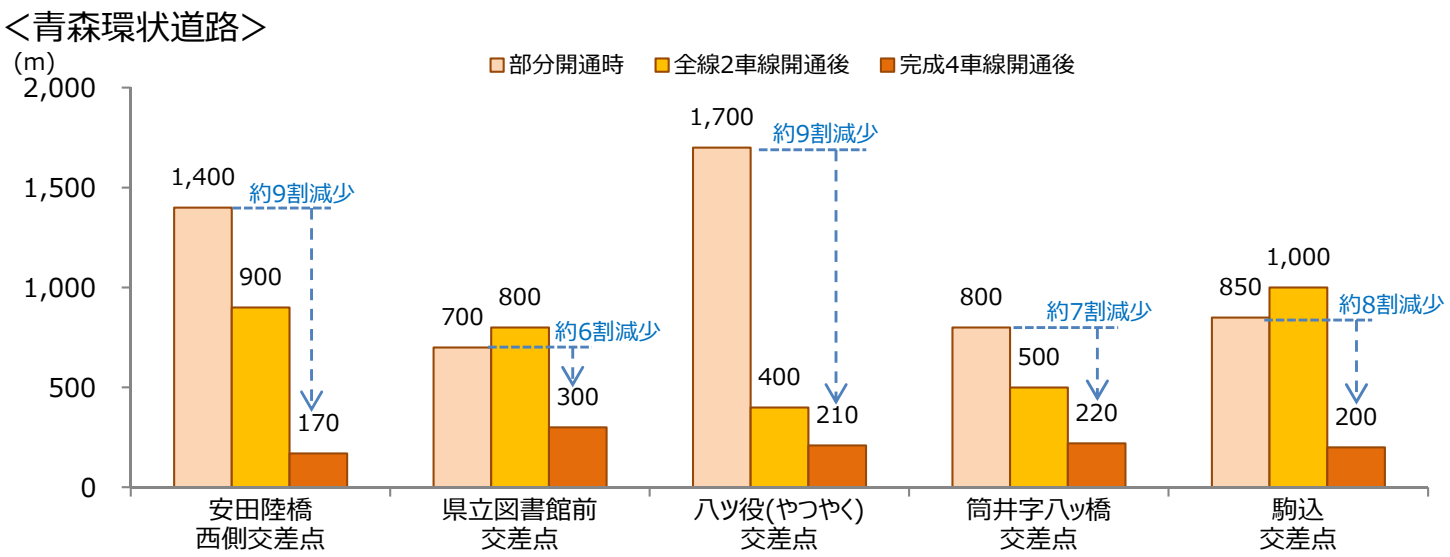
資料：平成25年度民間プローブデータ

2．事業効果の発現状況（６）　道路交通環境の改善

◆2車線開通、4車線開通、現道のボトルネック対策等を通じ、最大渋滞長が着実に減少
◆住居系地区における道路交通騒音の環境基準超過箇所も解消

▼ 交差点最大渋滞長の推移

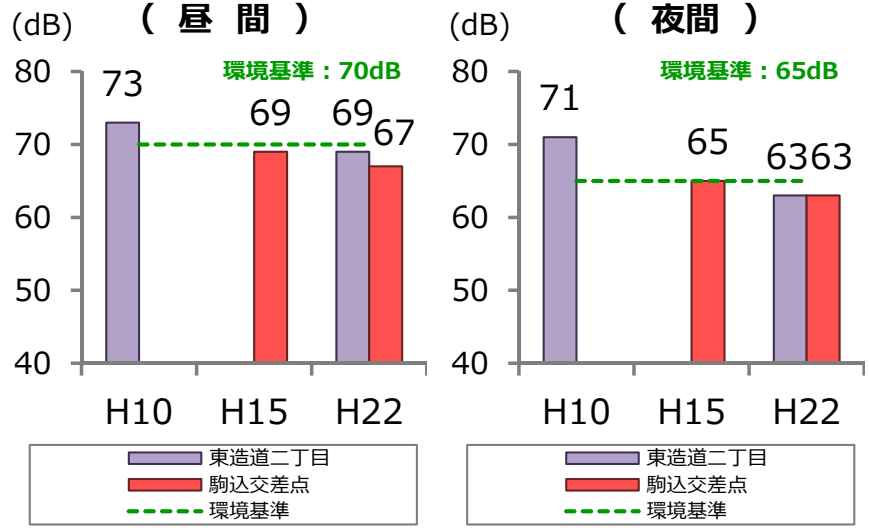




資料：青森河川国道事務所資料



▼ 道路交通騒音の推移

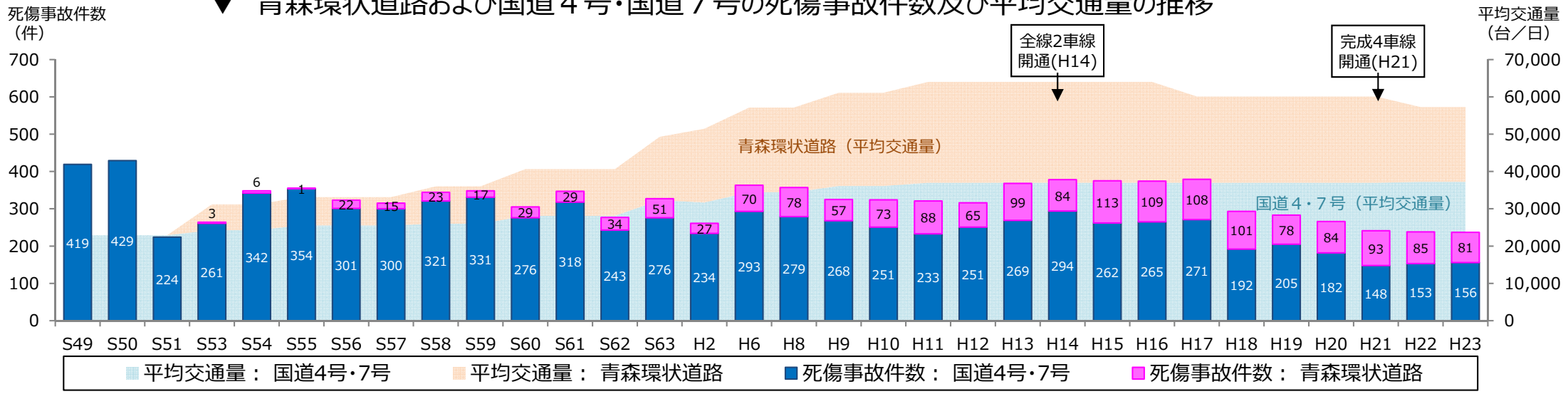


資料：青森河川国道事務所

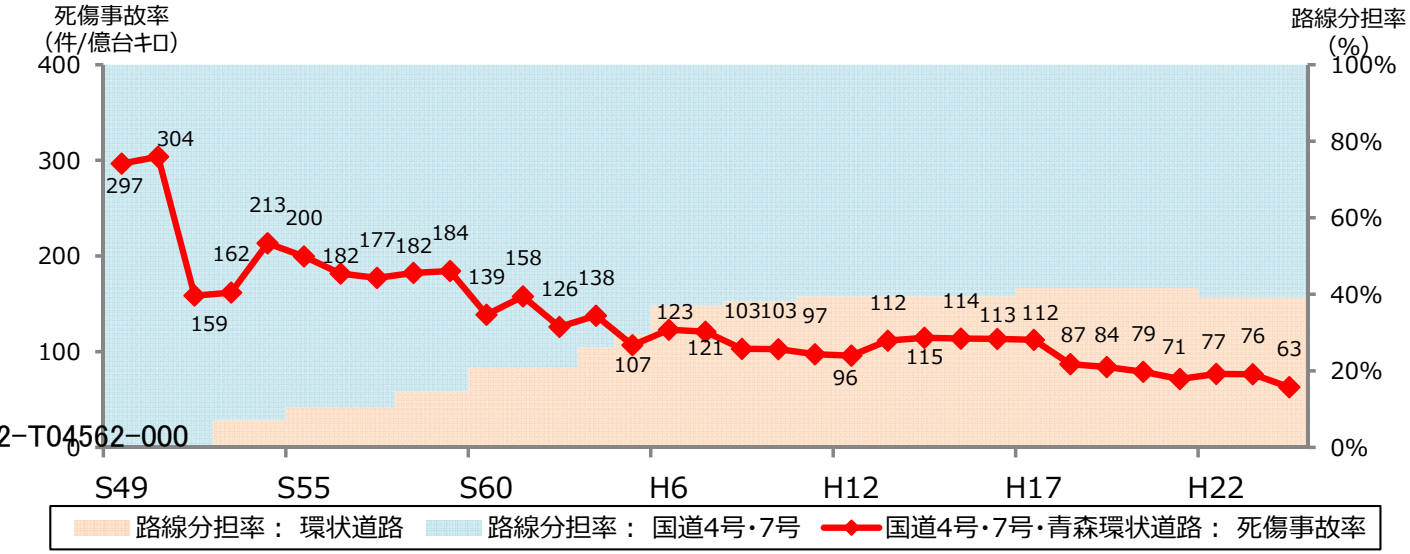
2．事業効果の発現状況（７）　交通事故減少

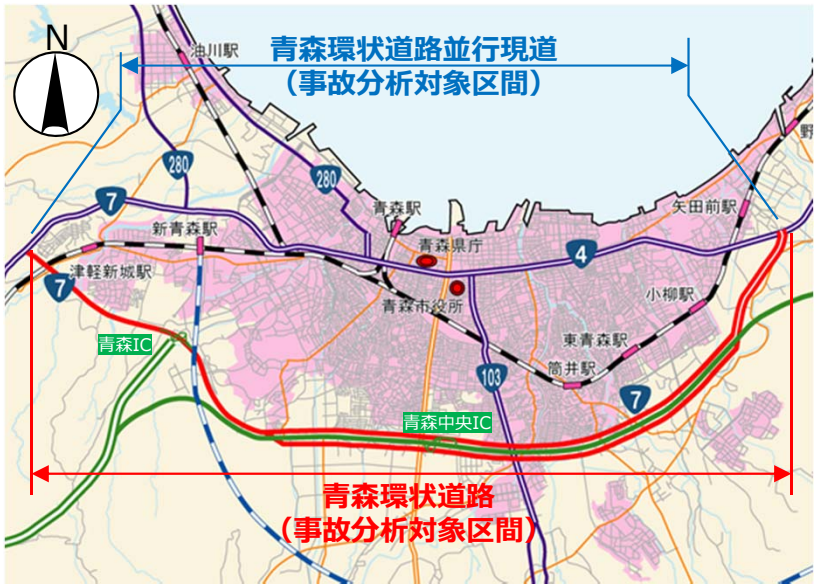
◆年々交通量が増加する中、死傷事故件数は横ばいから減少傾向
◆死傷事故率も減少傾向

▼　青森環状道路および国道４号・国道７号の死傷事故件数及び平均交通量の推移



▼　青森環状道路および国道４号・国道７号の死傷事故率及び路線分担率の推移





資料：事故件数･･･【S50～62]交通管理調査報告書【S49･63･H2･6】道路交通センサス【H8～24】イタルダ　　交通量･････道路交通センサス